令和3年4月9日 発行　第164号

ふれあいひろば

新潟市民病院
広報委員会

［患者とともにある全人的医療］

コロナ禍における自治体病院の使命

新潟市病院事業管理者
新潟市民病院　院長　大谷　哲也

令和3年4月1日から新潟市病院事業管理者および新潟市民病院院長を拝命しました大谷です。よろしくお願いいたします。

昨年2月29日に新型コロナウィルス感染症の最初の患者が発生し当院に入院しました。日本で初発例が確認されて、わずか1か月余りで新潟に患者が発生したことになります。以来、約100例強の患者が当院に入院し治療が行われました。外来入り口での検温、入院患者へのスクリーニングが行われておりご不便をかけていると思います。入院患者との面会も禁止されており、主治医との面談も限られているため、御家族への説明などの際には前もって質問などを用意されて面談していただきたいと思います。ワクチン接種後に感染が制御されるといいのですが、しばらくは患者の発生が続くと思います。これからもこの困難な新興感染症に対し、職員全員で力をあわせて取り組んでいきたいと思います。

現在のパンデミックの状況で外出を自粛している、あるいは発熱などの体調不良で外来受診が困難である場合には電話診療という方法があります。当院では令和2年3月から令和3年2月までに1291件の電話診療が行われています。外来予約時間に外来担当医に電話診療と処方箋発行が可能ですのでご利用ください。ただし初診には対応しておらず、再診予約患者のみとなりますのでご注意ください。今後は、高齢化社会がさらに加速すると見込まれていることから、リモート診療も日常的に行われる時代となるかもしれません。

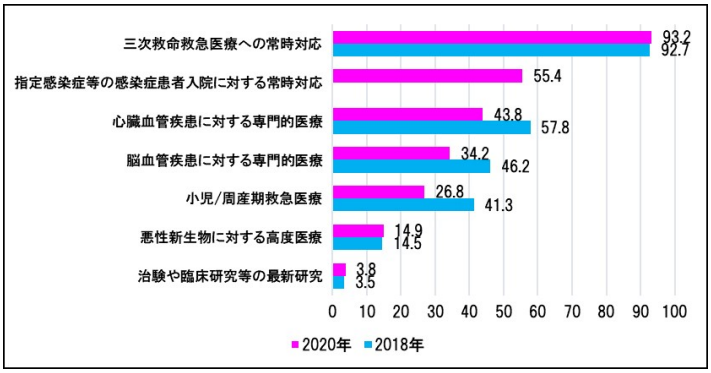

図1：　登録医アンケート調査；新潟市民病院が地域に果たすべき役割は何であるとお考えですか？　（3つ選んでください）

当院では2年に1回、登録医アンケート調査を実施しています。図1に示すように三次救命救急医療への常時対応への要望は93.2%と最多で、前回のアンケート調査よりもわずかに増加しました。新型コロナウィルス感染症への対応に関する要望は55.4%ときわめて高く、当院での新興感染症対応への期待値の大きさを反映しています。心臓血管疾患、脳血管疾患、小児/周産期救急医療への対応に関する要望は割合こそ減りましたが、順位は不変でした。

当院の使命の一つに、重症・専門・救急を中心に質の高い医療を目指すことという項目があり、図1の結果からも三次救急医療の対象である重症・救急症例に対する専門的対応への要望がコロナ禍にあっても極めて高いことがわかります。これらの要望は市民の意見の反映でもあり、当院では今後とも重症・救急疾患に対しさらに質の高い専門的医療を実践していきます。また、高難度手技として、手術支援ロボット・ダビンチによる手術は令和3年2月までで456件（消化管217件、前立腺239件）、脳血管内治療は令和元年度だけで72件、心血管カテーテル治療は695件実施されています。これらの最先端医療にも積極的に取り組み、これからも低侵襲で患者にやさしい治療を推進していきたいと思います。

子どもがてんかんと診断されたら

小児科　眞柄　慎一

1. 子どものてんかんのタイプを知ろう

てんかんには様々なタイプ（てんかん症候群）があり、発症年齢、発作のタイプ、脳波所見、原因、知的機能への影響、などの点から分類されます。例えば、乳児に発症し、眠い時に「ビクッ」と一瞬体を曲げる発作を数十秒おきに繰り返し、脳波にヒプスアリスミアという所見が出現するてんかんは、ウェスト症候群と分類されます。医師は、どのてんかん症候群に分類されるかを考え、治療方針を決定します。お子さんのてんかんがどのタイプに分類されるのかを知ることは、どのようにてんかんと付き合っていくかを考える上で大変重要なことですので、医師からしっかりと説明を受けてください。

2. 抗てんかん薬治療について

てんかんと診断されれば、まず抗てんかん薬による治療を考えます。抗てんかん薬は原因を取り除くものではなく、脳のてんかん活動が広がるのを抑えているだけの薬です。従って、発作が良好にコントロールされていても、薬の飲み忘れが1～2日間続き、抗てんかん薬が体から無くなってしまうと、とたんに発作が再発してくるおそれがあります。また、医師は抗てんかん薬を毎日内服していることを前提に治療方針を検討しますので、飲み忘れの無いよう管理をお願いします。

抗てんかん薬には、眠気、落ち着きがなくなる、食欲が増して太る、肝臓障害、薬物アレルギーなど様々な副作用が存在します。学業への悪影響も心配される薬剤もあり、親として気になる点だと思います。医師としては、発作抑制効果が高く、かつ副作用の少ない薬剤から選択するようにしていますが、薬剤の減量や変更も考慮されますので、気になる点がありましたらご相談ください。

3. てんかんと生活について

てんかんは様々なタイプに分類されますが、すべてのてんかんが同じように危険というわけではありません。危険なてんかんは、転倒を伴う発作（全身けいれんや、全身脱力発作など）や、長時間続く意識障害発作を起こすものです。また、その場合も発作そのものより、発作に伴う溺水や外傷に、より危険性があります。万が一でも発作が起きると危険な状況、例えば、入浴、プール授業などについては十分な監視が必要で、また、レジャーであっても海や川で泳ぐことは避けた方がよいでしょう。

スポーツについては、水泳、スキー、打撃系格闘技などに注意が必要です。また、ロッククライミングなど避けるべき競技もあります。一方、陸上競技、球技、組技系格闘技については危険性は少ないです。一般的にスポーツプレイ中は、適度の緊張と集中状態にあり、発作が起こりにくいとされているため、過度の制限は必要ありません。

過度な活動制限は、子どもの自立を阻むと考えられています。一律に制限するのではなく、その子のもつてんかんの危険性を評価したうえで、制限すべき状況を個別に考えていくことが重要です。

当院のホームページにも、バックナンバーを掲載しています。
「新潟市民病院　ふれあい広場」と検索してみてください！

発行元：新潟市民病院 広報委員会
新潟市中央区鐘木463番地7　TEL 025-281-5151